授業科目名	担当教員名	学科	学年	開講期	単位数	必・選
船舶整備論	瀬田広明	商船学科 航海コース	3	前期	1	必修

（授業目的（目標））

1．船舶職員（航海士）として要求される、船体、船内諸設備の保守・点検作業についての知識を習得する。

2．船舶職員（航海士）として必要なドック作業の概要を知る。

3．重要な甲板機器の取り扱い方法を習得する。　（授業内容）

（授業内容）

1．船体衰耗の原因、衰耗防止策、日常的な保守・点検	（2週）
2．船内諸設備の概要	（2週）
3．ドック入り、出し作業、ドック中に実施される作業、各種検査の内容と受検準備	（2週）
4．ドック作業における安全確保の概要	（1週）
5．船舶検査と検査証書	（1週）
4．係船用設備、荷役設備、操舵設備の取り扱い	（2週）
5．係船用設備、荷役設備、操舵設備の取り扱い上の注意事項及び安全確保	（2週）
6．船舶のコンディション維持に関する基礎的な知識	（3週）

（達成目標）

1．船体の保守・点検を適確に実施し、船舶の安全運航を保持できる能力を身につける。

2．ドック作業を安全かつ確実にこなせる知識を修得する。

3．重要な甲板設備・機器を安全に管理できる能力を身につける。

4．船舶計算に関する基礎的な知識を修得する。

（注意事項）

・授業方法は講義を中心とするが、鳥羽丸の設備を利用し、実習形式で実施することもある。

・鳥羽丸乗船時には、作業着、作業靴、作業帽を着用すること。

・予習、復習がなされていることを前提に授業を進める。

（あらかじめ要求される基礎知識の範囲等）

前年度までに履修した航海概論、小型船舶概論の単位を修得できていればよい。

（レポート等）

学習事項にそって課題を与え、レポートの提出を随時求めていく。

（教科書）　「基本運用術」本田敬之輔著（海文堂）

（参考書）　鳥羽丸の各種線図、各種設備・機器の取扱説明書

自作プリント

（評価方法）

評価は、中間・定期試験及びレポート等を総合して評価し、６０点以上を合格とする。

得点率は、中間・定期試験を６０，及びレポート・出席状況等を４０とする。